

特集 各世代からみた

建設業進化論

ベテラン	(株)齊藤組 建築部部长	小林 秀臣 氏
ベテラン	(株)本田工務店 土木部长	藤田 正二 氏
中堅	中村土建(株) CS部部长	柏倉 亜美 氏
中堅	(株)野澤實業 工事部	大平 侑弥 氏
新人	(株)板橋組 工事本土木部	丸山 悠希 氏
新人	(株)荒川建設 建築部	石澤 かずき 氏



広報委員長	宇都宮支部	岩原 正樹
広報副委員長	下都賀支部	吉田 わたる 氏
広報副委員長	那須支部	星 ひとし 氏
広報委員(司会)	安蘇支部	石澤 ひろゆき 氏

石澤洋幸：以後司会 今回、新人、中堅、ベテランの社員を交えて、座談会を企画いたしました。各世代の県内建設業の技術者が集い、建設業の過去、現在、未来への展望等について本音で語っていただき、業界発展に繋げられる場にしていただけるよう、切に願っております。

それでは、座談会に入ります。初めに、新人の丸山さんにお聞きします。丸山さんは何がきっかけで建設業に就職したのですか？

丸山 私は小さいころからモノ作りが好きでした。自ら作ったものが形に残るところが好きで、建設業に魅力を感じていました。高校で専門の技術を習っていくにつれて、やっぱり自分は建設業が好きなんだなと思い、建設業に就職しました。

司会 石澤（いしざわ）さんはどうでしたか？

石澤一樹 私は大学で電気を専攻していたのですが、荒川建設のインターンシップに参加して、地元に関わった仕事を知り、また、私のよく行く地域で作業をしていることを知り、この業界に入りました。

岩原委員長 石澤さんは電気専攻なのに何故建設業のインターンシップに行ったのですか？

石澤 電気だけでなく、いろいろなところへインターンシップに行きました。その中で建設業を選びました。

委員長 それは素晴らしい!!

司会 続きまして、中堅の大平さんにお聞きします。大平さんの就職したところの建設業の職場についてよかった

こと、悪かったことはなんですか？

大平 良かったことは、上下関係が厳しくて寡黙なイメージでしたが、若手でも話しやすく、相談しやすかったことです。聞くことばかりでしたが、食事も連れて行ってもらったりもしました。

悪かったことは、今と比べて、残業・休日出勤が驚くほど多かったことです。今となっては良い経験でした。

委員長 やめようとは思わなかったですか？

大平 やめようかなと先輩に相談はしましたが、やめなくてよかったと思っています。

司会 柏倉さんはいかがですか？

柏倉 良かったことはなかったですね。10年以上前は現場に女性はいませんでした。トイレが汚いのが正直一番つらかったです。力仕事も多くてつらいことばかりだったと思います。今は女性も増えてきて、現場環境はだいぶ良くなりました。

委員長 やめたくはなかったですか？

柏倉 実はやめたいとは思わなかったです。性格もあるのですが、負けず嫌いなので、意地でもやめないと頑張りました。

司会 うちの現場にも女性のディレクターとかがいるのですが、がけとか登れないんですね。そういうことはどうすればよいと思いますか？

柏倉 男性と女性で体力差とかは正直あると思います。でも、女性だからと言って初めからやらせないこと

はしないほうがよいと思います。配慮はあってもいいと思

いますが、誤解を恐れずに言うと差別はいけないと思います。女性だからできないだろうという決めつけはいいと思

います。できそうな範囲でやらせてもらえばいいと思

いますね。
司会 次にベテランということで小林さん、小林さんについての就職当時の職場はどうでしたか？
小林 就職した平成6年当時はバブルの名残が多少残っていました。残業代もかなりの額となりました。それが唯一の良かったことです。あとはがむしゃらに働くしかなかったと思います。休日は日曜日のみで、毎日書類整理や現場作業を遅くまで仕事していました。当時の職人さんは気質が荒く、毎日現場で怒鳴られていて、嫌になったことも多くありました。

吉田副委員長 仕事を始めてみて、年齢構成に疑問を感じることはありますか？
石澤 ある現場で、鉄筋屋さんが4人いたのですが、平均年齢を聞いたところ67才でした。

吉田副委員長 若い人を迎えるために建設業は新3Kをアピールしています。条件を整えるのも大事ですが、同年代の仲間が活躍しているかどうかにも気になりますか？
石澤 若い人だけでも不安ですが、ベテランもいて若い人もいて、年齢層がまんべんなく偏りがいいんじゃないかと思います。

司会 丸山さんはどうですか？
丸山 私は、正直建設業にはあまりいいイメージは持っていませんでした。残業はきついし、作業員は厳しい。実際は、会社が配慮してくれて、年齢の近い人を充ててくれています。皆さん気さくで話しやすいし、土木って実際に造ってみたいと楽しさがわからないところがあると思

います。
司会 確かに職人さんて話しづらかったですね。

司会 確かに職人さんて話しづらかったですね。

「レベル持ちますよ」って言ったら、逆に「やれ！」なんて言われて。今でもその職人さんとは懇意にさせてもらっていますが。

委員長 建設業本来の魅力とか、モノづくりへの矜持とかプライドに魅力を感じて集まってももらえればいいんですが、今は若い人に集まってもらうために、形、例えば給料とか休みにこだわっているような気がします。モノを作る本来の楽しみ、喜びを伝えることで建設業の良さがわかってもらえるのが理想かなとは思っています。協会として今後も引き続きPRに努めていかなければならないと思います。

司会 現在の建設業をどのように考えてますかということで藤田さんいかがですか？

藤田 ICT関係については、いろいろと新しい技術が出てきていますが、それを必要とする職人がどれくらいいるのか、覚えきれないし、それを教えることも出来ないという事がネックであると感じます。

また、BIM/CIMも出てきていますが、これらを使いこなせる人がどの程度いるのかも考えます。もちろん私も学ばなければなりません、ICTを実際の現場で活用してみても本当に使えるかどうか、また、それらを使いこなせる人材の育成をどう進めていくかが大きな課題であると考えます。

今の若い人たちには現場で活かせるICT技術を学び、ICT技術により生産性向上と人手不足を解消できるように進歩してもらいたいと思います。しかしながら、現在のICT技術が現場で有効活用できるまでには追い付いていないというのが現状かと思っています。



小林 パソコンは確かに効率は上がるが3Kは変わらないと思います。年齢差があると若い人たちに委縮させてしまう面があります。それと若い人たちに感じることは、いろんな知識は持っているのですが、それを有効利用していないのかなと思うことがあります。

報連相についても、言われたままやるんじゃなくて、自分

でよく考えて、深く考えながらこうなんだけどもどうしたらよいかと相談してくるといいんじゃないかと思っています。建設業のきつい、汚い、危険のイメージは今でも変わらないと思います。普通のサラリーマンとは違うので、若い人たちには、こういうことも受けとめてやってほしいと思います。確かにやりがいもあるので楽しくやってほしいという気持ちです。



星副委員長 今は変革期にあると思います。ここに来る前にラジオを聞いてきたんですけど、ChatGPTで施工計画を作るという話をしていました。建設業は3Kは当たり前だ。やりたい人はそれを覚悟して入ってくる。建設業の社会的な意義を一般の人にわかてもらえることが大事だ。工業系高校が定員割れというが、地域で土壌づくりをやったところ女の子も喜んでやっていた。地域を我々が守ってきたことを自負している。

司会 それでは、今後の建設業の未来の理想について柏倉さんお聞かせください。

柏倉 当社では土木は4週8休が実現できていますが、建築は4週6休を目標に取り組んでいます。新入社員、女性社員が入ってきているので、これからは、現場見学会を実施するなどして、多くの若い人に体験してもらいたいと思います。重機に乗ってもらったりして、少しでも興味を持ってもらう取り組みが大事ではないでしょうか。工業高校の生徒や小さい子に体験してもら



ことで少しでも興味を持ってもらうことが、担い手確保につながると思います。

司会 大平さんの理想はどうでしょう？

大平 私の場合10年ほど新入社員が入ってきませんでした。ここ2、3年は新入社員が入ってきてくれています。できれば、年代が空かずに続いているのが良いと思います。直近の先輩がいれば相談しやすくなりますし、入ってみたいとわからないことが多いので、外側から見たイメージを変えていきたいと思っています。



委員長 今後イベントなどで小学生や中学生に重機の運転を体験してもらえる機会を作れたらと感じています。安全の確保等難しい問題もありますが、「重機は面白い」などといったことを感じてもらえればより建設業に対して興味を持ってくれるのではないかと考えています。昨年も協会の青経連で建FES GO!という小学校低学年をターゲットにしたイベントを行いましたが大盛況でした。ところが、中学、高校と進学するにつれて建設業離れていき、工業高校の多くが定員割れている状況です。ぜひ現場に実際に携わっている皆さんも、若者達に建設業に対して良いイメージを持ってもらえるよう働きかけをおねがいしたいと考えています。

司会 それでは皆さんの今年の目標をお聞かせください。

柏倉 今年から部長となり、当社女性初の管理職となりました。会社の期待もあると思います。女性活躍の流れに乗って、社内だけでなく対外的にもこういった場に多く出て今後の女性活躍について改善点など話していければと思います。

大平 最近休みが4週8休と、とれるようになってきて、今までは休みでも仕事の事で頭がいっぱいでしたが、仕事を効率化し、休みを有効に使えるようになります。

石澤 私は今、建築の事を学ぶ必要があるので、自宅に帰ってからどんどん本などを読んで資格取得に挑戦してみたいです。



丸山 私は社会人一步目、まずは人として信頼される「君にだったら」と、仕事を任せてもらえるようなひとになりたいと思います。

小林 健康を保っていれば仕事もこなせるかと思うので、健康第一で頑張っていきたいです。



藤田 私も健康を一番に考え、それプラス若手社員とのコミュニケーションをうまくやって、楽しく仕事が出来ればと考えています。

星副委員長 本日は本当に3世代でお話できたことは貴重でした。

うちの新入社員にも、「建設業ってものづくりをしていますが、コミュニケーションがとても大切だ」と話しています。ここ10年20年で、業界も変わってきて、今の時代当たり前にパソコン、スマホを操作する若手が入ってきて、合理化できているのかな？と傍からみると思うこともありますが、ICT作業だけで災害時の復旧作業ができるかと言ったら出来ないと思います。

ものづくりというのは、人の手でやるという部分は変わらないことなので、この変化の中でも変えていくべきもの、変えてはいけないものがあるのかなと感じています。今後も我々業界全体で若手の人と世代別の意見交換をやっていくべきなのかなと改めて思いました。ありがとうございました。

司会 本日は貴重な時間を頂き、本音でのトークをありがとうございました。

今年度が建設業にとって良い年となるよう、お互い頑張ってください。